

「おおい！」今日もまたこの方の声がフロアの中に響いている。私は今年の夏、特別養護老人ホームで介護実習を行っていた。実習の初日、担当するユニットの部屋の前まで来て深呼吸をする。「これから5週間の実習がんばろう」そう心の中で思い扉を開けた。部屋の中に広がるのはキッチンやテーブルがあり、利用者の方がここで生活をしているという雰囲気を感じられるとても居心地の良い場所だと感じた。事前に認知症の方が多いうニットだと聞いていた。実習の初日であったので「ここにはどんな利用者の方がいるのか、たくさん話し掛けてみよう」と思った。その時フロア内に響いた「おおい！」という大きな声。振り返ると男性の利用者の方が叫んでいた。初めて実習の中で「怖い」と感じた。その恐怖から話しかけようと思ってもなかなか一歩を踏み出せなかった。そんな中、職員の方がその男性の元に話し掛けに行った。するとその男性の話し方はとても優しく楽しそうに会話をしていた。私は心の中で壁を作ってしまった。しかしその職員の方は壁など作らず自分から話し掛けに行っていた。自分が悔しかった。ここには学びにきたのにそのチャンスを逃そうとしていたのだと。私はその男性の方の元へ行き話し掛けてみた。その時に気づいた、この方は目が見えてない。そう、全盲であった。

話を聞くと幼少期に視力を失ったと。目が見えない、目の前は真っ暗の世界なんだと。その不安から近くに誰がいるのか確認したくて声を出していた。この時「もっとこの方と関わりたい、何かこの方のためにやりたい」と思い、介護計画を立案する担当の利用者に決定した。それから毎日関わっていく上で音楽が好きでありハーモニカが吹けることがわかった。私はギターが弾けるため「一緒に演奏しましょう。」と声を掛けると、快く「いいですよ。」と返事があった。『ふるさと』『富士の山』を一緒に演奏できた時は嬉しくて涙が出そうになった。

その演奏を聞いた職員、利用者の方からも「すごく感動したよ」との声を頂いて本当に嬉しかった。何よりもハーモニカとギターと一緒に演奏している時間が自分にとって特別な時間であった。初めて会った日、怖いと感じてしまったけれど、関わっていく上でとても優しい人だと気づくことができた。とても大事なことを学べた実習であった。

そして日々は過ぎ、また今日もフロアに「おおい！」という元気な声が響いている。